

事業概要

事業No.	10			
年度	令和4年度		担当課 文化課	
事業名称	第30回音楽のまち・ふなばし 千人の音楽祭			
主催者	千人の音楽祭実行委員会/船橋市/船橋市教育委員会(文化課)			
開催経緯等	平成6年1月30日、市内の音楽団体、小中学校が中心となり、船橋アリーナの落成記念事業として出演者800名、観客2,000名で始まる。 翌年から実行委員会を立ち上げ、市内の音楽関係者が創意工夫をし、企画・運営を担っている。邦楽団体、合唱団体、高校生などを参加者も広がり、市民がより多く参加できるよう企画を検討している。 第4回開催から「ふなばし音楽フェスティバル」事業として実施しており、音楽のまち・船橋を代表する事業として、市民と共に作り上げる音楽祭として定着している。			
事業趣旨 (目的)	市内の音楽団体が一堂に会し、世代やジャンルを超えた交流をすることで、音楽文化の振興を図る。また、子供たちの未来につながる音楽祭として、事業を通じて音楽のまち・ふなばしにふさわしい音楽環境の整備に寄与していく。			
第2次基本方針における事業の位置付け 3段階評価	気づき始まる	1	該当施策 (選択)	基本目標Ⅲ育みつながる施策① 子供が文化・芸術に親しみ、心豊かに成長するための取組の充実
	学び楽しむ	2		
	育みつながる	3		
	活かし伝える	2		
参考指標	来場者の満足度		指標値	90%
指標値設定の理由	新型コロナウイルス感染症の状況によるが、現地開催を行い来場者アンケートを実施する予定のため、従前の指標である来場者満足度を設定した。			
事業内容	新型コロナウイルス感染防止対策ガイドラインに沿って例年よりも出演者数を絞るなどの検討を行いつつ、「子どもたちの未来につながる音楽祭」に相応しい音楽祭となるよう、船橋市民に生の音楽の素晴らしさを改めて伝えるイベントを目指す。 ・開催日時 令和5年2月5日(日)午後2時00分開演～ ・場所 船橋アリーナ			
(令和2年度実績を受けて)協議会からの助言・提案等	CATVの番組として制作、アプリを活用して配信できたことは価値ある取り組みであり、今後も並行してやっていただきたい。市においては最大の音楽祭であり、子供たちの声や姿が輝く場を工夫して設定できるとよい。 会場での中止を、今までのやり方を見直す良い機会と捉え、単なる再開にとどまることなく、アニソンなど新しいジャンルを積極的に取り入れるなど、時代を見据えた新鮮で魅力ある音楽祭として今後のあり方を考えていってほしい。 節目となる第30回の開催については、集大成となるような企画を期待する。			
協議会からの助言提案等を受けてのコメント	新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、現地開催にて千人の音楽祭を行う方法を検討します。特に、昨年度制作した新曲「わたぼうし」(作曲:新垣隆)を活用したイベント構成とする予定です。コロナ収束後を見据えながら、久しぶりに市内の音楽団体が一堂に会し、子供から大人まで多くの参加者を得てイベントを開催できるよう取り組んでまいります。			
予算額	市予算		7,100,000円	
	国・県等補助等		0円	
	協賛・他県等負担金		0円	
	その他(銀行利息等)		0円	
	計		7,100,000円	

事業実績

資料 1 - 4 (現) 二次評価シート

年度 令和4年度 担当課 文化課

事業名称	第30回音楽のまち・ふなばし 千人の音楽祭		
開催実績	・事業概要 「子供たちの未来につながる音楽祭」と位置付け、世代・ジャンルを超えた音楽的交流を図る。オーケストラ・吹奏楽・合唱などのジャンルごとに参加者を募り、船橋アリーナに集い演奏を行った。 ・開催日時 令和5年2月5日(日曜日) 午後2時00分開演～ ・場所 船橋アリーナ ・入場 無料 ・来場者 2,030人 出演者 1,267人 ・アンケート結果 ・感想 ① 大いに楽しめた…79% ②楽しかった…17.4% ③まあまあだった…1.2% ④あまり良くなかった…0% ・ステージ構成 ①オープニング ②小中学校合同吹奏楽 ③市立船橋高等学校ダンス部 ④小中学校合同合唱⑤市船男子合笑⑥小中学校合同管弦楽⑦声松優一 ⑧和太鼓⑨ビッグバンド⑩一般吹奏楽⑪一般管弦楽⑫グランドフィナーレ		
指標値 (実績)	96%	情報発信 方法・媒体	広報ふなばし、文化課FB、WEB掲載 ジェイコム千葉YY船橋習志野局による生放送、YouTube
決算額	市予算		7,024,292円
	国・県等補助等(名称:)		0円
	協賛・他県等負担金		1,888,850円
	その他(入場料収入等)		9円
	計		8,913,151円
実施後一最も関連の深い基本目標と施策を選択		基本目標Ⅲ育みつながる施策① 子供が文化・芸術に親しみ、心豊かに成長するための取組の充実	
一次評価			
目的に対する事業実績の達成状況	新型コロナウイルス感染防止対策ガイドラインに沿い、参加者や団体数を絞っての開催となった。千葉県唯一のプロオーケストラである千葉交響楽団をゲストに招き、令和2年に作曲家・新垣隆氏が「千人の音楽祭」のために作曲した“わたぼうし”を、一般管弦楽団・一般合唱団との共演のもと、初めて有観客で披露することができ、記念すべき30回目の開催に相応しい演奏を行うことができた。オーケストラ、吹奏楽、合唱、和太鼓、ビッグバンドといったジャンルを超えた団体が一堂に会し、市内の小・中学生と大人の団体が世代を超えて一つの音楽祭を作ることが出来た。来場者も3年ぶりの現地開催を楽しみ、オープニングからフィナーレまで常時客席が満員の状態で、満足度も96%を達成した。		
今後の事業課題	「千人の音楽祭」については、市内の音楽団体等が一堂に会し、世代やジャンルを超えた交流をすることで音楽文化の振興を図るなど重要な事業であることから、今後も本事業を安定的に実施していくため、実行委員会とともに実施方法などを検討していく。		

協議会委員評価欄

文化振興との 関連性	密接に関連する	○	協議会からの 助言・提案等	30回も継続していることは素晴らしい。市内の音楽団体が一堂に会し、世代やジャンルを超えた交流をすることは大きな意義がある。満足度も高く、市民にとってかけがえのない行事であることがわかる。 千葉交響楽団というプロの参加には様々な意見がある。千人の音楽祭は市内の学生と市民の音楽団体が一堂に会するアマチュアの音楽祭であるから、プロの音楽団体は不要という意見がある一方、プロの交響楽団が入ることでオーケストラの演奏を引っ張ったことで、皆それに乗って良い演奏ができた、とする見解もある。プロの演奏家の隣で演奏することはとても勉強になるため、演奏レベルを上げるにはプロに参加してもらう効果は大きいと感じる。プロとアマチュアの交流は千人の音楽祭を益々素晴らしいものにしていくと思う。 参加者およびそのOBOGを対象として、アンケート調査を実施して、この事業がどのような意義・効果があったのかを検証すると良い。また、この成果をもとに、改めて実施の意義を広く市民と共有し、スタッフにはアフターコロナならではの方法論の構築に努めていくことに期待する。
	関連がある			
	関連性が薄い			